

1. 海南病院の紹介

当院は愛知県弥富市(名古屋駅から電車で15分の距離)にある540床、31科を有する地域基幹総合病院です。2018年 創立80周年を迎えましたが、2016年に全面改築し、外来・病棟・血液浄化センター・教育研修棟などもすべて新築され、綺麗な環境で診療や研修に取り組める状態となっています。



2. 海南病院での腎代替療法、PDへの取り組みの特色

血液浄化センターは、HD/online-HDF 23床、診察室2室(PD診療室を含む)を有し、通院および入院HD、PD患者のみでなく、名古屋第2赤十字病院での腎移植術施行後1年を経過した腎移植患者も診療しており、バランスのとれた腎代替療法を提供しています。

「腎代替療法選択外来」も医師・看護師の連携のもとSDMを実践し、PD選択率は約3割になっています。腎臓内科医6名、日本看護協会 透析看護認定看護師、日本腹膜透析医学会 腹膜認定指導看護師を中心に、2011年「Kainan PD Project Team」を結成し、毎月カンファレンスを行い、組織的なチーム医療体制を構築しています。



従来からシャント関連手術を行っていましたが、2010年以降はすべてのPD関連手術(SMAP、SPIED、CRF、PWAT、SPD、抜去術)も腎臓内科医が行っています。いままでトラブルなく、3~4年目の若手腎臓内科医でも保存期から関わっていた主治医が執刀する体制が構築されています。



PD指導は、外来(血液浄化センター)と病棟看護師が連携をとり、PD導入期の教育指導を行い、PD維持期の外来も年次指導計画に基づいた継続指導を実施していますが、オリジナルパンフレットおよびDVDを使用し、患者の個別性に応じた教育をおこなっています。



オリジナル患者指導用資料の作成



オリジナル指導用DVD

導入期や合併症入院後は、医師および外来-病棟-訪問看護師が連携し、自宅訪問を行い、高齢者 PD 導入も推進しています。



外来でも、医師・看護師・管理栄養士が一堂に会し、PD 診療・指導にあたっています。

PD外来継続指導

看護師による在宅療養指導料の獲得



PD外来継続指導



2012 年以降、院内スタッフ PD 教育もすべて院内医師と看護師でおこなっており、訪問看護ステーションへの指導もおこなっています。

「PD 患者・家族の交流会」の開催や東海地方という災害がおきやすい地域でもあり「PD 患者さんのための災害講習会」も毎年開催しています。



2018年には、地域の医療従事者を対象としたPD体験型のセミナーを企画し、152名の参加者があり、地域におけるPDの啓蒙活動も行っています。



2019年からは臨床工学技士から患者指導の一環として、つなぐ・かぐやの設置方法と“つなぐ”の清掃方法について説明を行っています。また、かぐやのシェアソースの新規患者登録や処方変更後の機械更新（院内で使用している場合に限り）、PD実施中の機械トラブル対応を行っています。血液浄化センター業務に携わっている8名の内、4名でPD業務を行っています。また、院内で使用した“つなぐ”は、臨床工学室にて清掃・点検を実施しており、いつでも病棟へ貸し出せる状態にしています。また、2023年からはPDプロジェクトに参加し、PD導入予定の患者さんの情報や機械トラブル発生時の対応についてなどを腎臓内科医、病棟看護師、血液浄化センター看護師、管理栄養士と情報共有をしています。現在、腹膜透析認定指導臨床工学技士が1名いますが、もう1名認定取得予定のCEがいるため、今後はPD業務へのタスクシェアリングも実施していきたいと考えています。



- 当院では、「チーム医療」、「患者・家族とのSDM」、「バランスのとれた腎代替療法」を実践し、PD医療を推進しています。